公立西知多総合病院だより

第 23 号（7～9月号）

メディアスチャンネルにて
「健やかインフォメーション」を放送中です！
※詳細は裏表紙をご覧ください。

コロナ禍での救急外来／副院長兼救急科主任部長 … P1～2

コロナ禍のがん検診／診療部統括部長兼健診センター長 … P3～4

集中治療センターについて／麻酔科主任部長兼集中治療センター長 … P5

緩和ケアについて／緩和ケア認定看護師 … P6

薬薬連携について／薬剤師 … P7～8

コロナ禍での救急外来

副院長兼救急科主任部長　有木　弘

自粛の１年間

昨年１月に国内初の新型コロナウイルス感染者が報告されてから、当初はこのウイルスの感染力などの特性がわからないままその対応や治療につき紆余曲折が続きましたが、３密の回避、マスクの着用、手指衛生などの基本的な感染予防策は徐々に定着してきました。

これまで国民にはいろいろな自粛が求められ、国全体が閉塞感におおわれた１年でした。

変異株の脅威

現在は、新たな変異株ウイルスによる第４波の流行とともに、３密の回避でも予防できないようなウイルスの感染力の強さのほか、これまで少なかった若年層での感染の流行や重症化も伝えられています。

こうした中で３度目の緊急事態宣言が、東京や大阪などに始まり、現在は愛知を含む10都道府県にて発令されるに至り、今まさにコロナ感染患者用の入院ベッドの不足から、必要な治療も受けられない医療崩壊が目前に迫っている状態です。

すぐそばにコロナ

救急外来には、外傷のほかに、頭痛、発熱、腹痛、胸痛、めまい、しびれなど色々な症状で患者さんは受診されます。コロナウイルスとは一見関係ないようなきっかけで受診される患者さんの中にも、ウイルス感染がすでに広がっている可能性が考えられます。

このウイルスの対処が難しい所は、感染していても全く無症状であったり、一般の風邪と区別のつかないような軽微な症状であったりすることが多いことです。さらに、症状の出る前や症状の軽いうちから周囲の人に感染させてしまう危険性が高いとも言われています。転んで骨折などのケガをして運ばれてきた人が、実はコロナウイルスに感染していたことが後で判明する場合もあります。

病院機能の停止を経験

救急外来では、発熱があったり、咳や痰などの呼吸器症状がみられた患者さんには、診察を別室で行ったり、待合のスペースを一般の患者さんと分けたり、ご自身の車内で待機していただいたりして、待合や診察での感染のリスクの軽減を図っています。

救急車で搬送された場合も同様で、感染リスクの軽減のために、空調制御をしたスペースで、スタッフは全身の防御をした上で治療に当たっています。医療機関においては、一旦院内にて感染者が発生すると、感染の広がりによっては病棟や一般外来、救急外来を閉鎖せざるをえない状況になり、病院の機能停止をきたします。

当院でも院内で感染者が発生し、病棟の閉鎖と救急の受け入れも一時制限しましたが、何とか感染の拡大は抑えられ短期間で病院の機能を回復することができました。

この経験を教訓に、緊急入院の際には、コロナウイルスの抗原検査やＰＣＲ検査をより積極的に実施するほか、コロナ感染症の可能性がごくわずかでも懸念される場合には、感染症の疑いとして特殊な対応をする病棟に一時的に入院していただくこととしています。その他にも、コロナ感染症の終息の決め手として期待されるワクチンにつきましても、少しでも早く皆さんがワクチンの接種を受けられるように病院として個別接種に協力させていただいています。

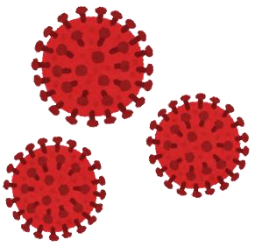
病院受診時のお願い

外来の診察から入院に至るまで、救急外来の現場では、新型コロナウイルス感染症の出現以前に比べて感染予防に対して幾重にも慎重な対応が求められています。外来を受診される場合には、病状に応じて待合や診察の案内をさせていただきますので、事前に電話での連絡をお願いします。

また、受診時の正しいマスクの着用や手指衛生にも引き続きご理解、ご協力をお願いいたします。

コロナ禍のがん検診

診療部統括部長兼健診センター長　青野　景也



はじめに

昨年当初から新型コロナウイルス感染症のニュースが常にトップで報じられています。おそらく、まだ数年はコロナウイルスと共に生活することになると考えられます。

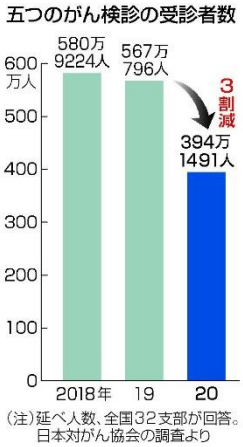
この拙文を執筆中の４月下旬には、高齢者のワクチン接種がようやく始まり、また、第４波の感染拡大のため、３度目の緊急事態宣言が東京、関西圏に発令されました。不要不急の外出を控えるように政府が呼びかけています。

このような状況下で健診の受診率が低下しています。

コロナ禍、がん検診受診全国で３割減

公益財団法人日本対がん協会の発表で、2020年の胃や大腸などのがん検診を受けた人が例年より３割減ったことが明らかになりました。

同協会では市区町村のがん検診を受託する全国のグループ支部に2020年の受診者数を尋ね、32支部からの回答を得られました。その結果、胃、肺、大腸、乳、子宮頸のがん検診を受けた人は延べ394万1491人で2019年の567万796人より約30.5%、2018年と比べると約32.2%の減少となりました。



減少幅やそれぞれのがんの発見率から推計すると、2020年は未発見のがんが約2100ある恐れがあります。他のがん検診や別の疾患を治療中に偶然見つかるがんも多く、新型コロナ拡大による受診控えもあり、更に多くのがんが未発見となっていることが懸念されます。（参考：公益財団法人日本対がん協会）

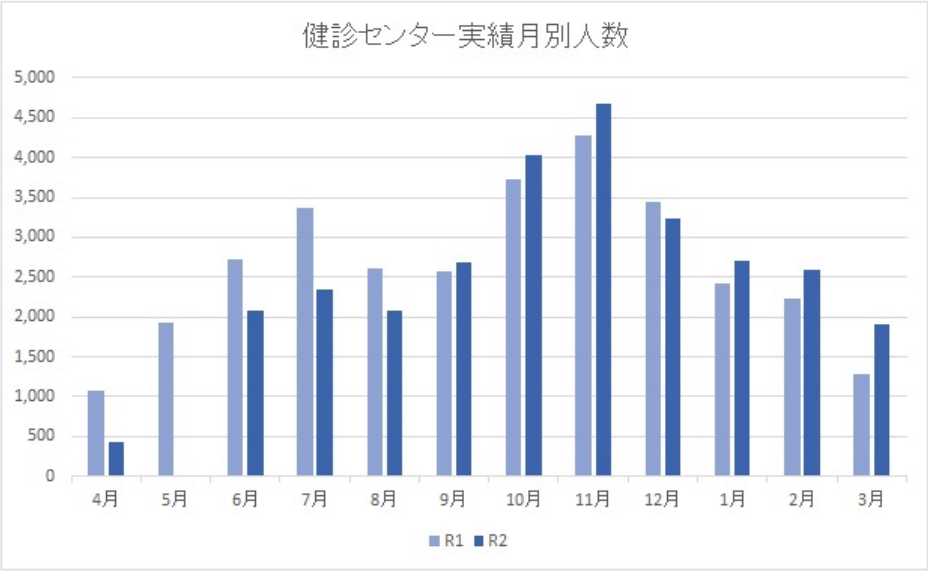
このように、健診受診抑制によって見つかるはずであった癌が相当数あると考えられます。

健診センターの近況

昨年４月の緊急事態宣言時には、健診センターを休止して発熱者外来としたため、健診は受付していませんでした。６月からは、病院敷地内に仮設発熱者外来診察棟を新設して、健診を再開することができました。

その後、従来６月開始の東海市住民健診がコロナの影響で９月開始となった

ため、秋以降に住民健診を受けられる方が増加しました。健診受診者数は2019年度（令和元年度）が3万1664人であったのに対し、2020年度（令和2年度）は2万8759人と約１割減でした。



健診センターの対応

感染終息の道筋がまだ見通せない中、院内クラスターを発生させないように感染対策を十分に取り、健診を行っております。人間ドック学会など健診関連８団体の指針に従い、マスクの着用、体温測定、受診者間の距離の確保、職員の入念な手指消毒等を行っております。

また、感染防止の観点から肺機能検査は現在基本的に休止しております。密集・密接を避けるために午前中の受診者数を制限し、午後の枠を拡大しました。胃がん検診においては、従来から要望の多かった内視鏡検査枠を拡大し、市民の皆様のご要望にお応えできるように体制を整備しております。

最後に

健診を受けないことでがんや心疾患、脳血管疾患など命に係わる疾患の発見が遅れるリスクがあります。早期に見つかれば治療の負担が軽くて済むのに、進行して治療の選択肢が減ってしまうことも危惧されます。

市民の皆様には、普段から健康に留意され、今まで通り健診を受けられることをおすすめします。ただし、発熱のある場合や体調不良の方は、健診の日程を変更し、かかりつけ医または当該の診療科へ受診をお願いいたします。

集中治療センターについて

麻酔科主任部長兼集中治療センター長　矢田部　智昭

集中治療とは？

当院の集中治療室は６床あり、年間に約600名の「大手術後で継続した全身管理が必要な患者さん」「救急患者さんの中で高度な全身管理を必要とされる方」「病棟入院中に状態が悪化した患者さん」が入室されています。

集中治療は、このような患者さんに対して、臓器や疾患を問わず集中的な治療を行うことで、臓器機能を回復させ、救命することを目的としています。

近年は、集中治療の救命率が向上したため、救命するだけでなく、退院された後に一日でも早く元の生活に戻っていただけるようにすることが求められています。

そのため、当院でも、集中治療室に入室中からリハビリテーション、栄養療法、睡眠の調整などを積極的に行っております。

集中治療＝チーム医療

このような取り組みを行うためには多職種でのチーム医療が欠かせません。個々の患者さんに最適な医療、看護を提供するために、毎朝、集中治療医、各診療科の先生方、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士などの多職種でカンファレンスを実施して、治療方針を決定しています。

地域に信頼される集中治療センターを目指して

集中治療も日進月歩のため、常に新しい情報が発信されております。私たちは学会活動などを通して、このような情報を取り入れ、診療、看護に活かすことができるように日々の努力を続けて参りたいと存じます。

緩和ケアについて

緩和ケア認定看護師　竹内　美保

紫蘭
花ことば【あなたを忘れない】

どこでも受けられる「緩和ケア」

緩和ケアは、病気に伴う苦痛（身体・精神・社会・スピリチュアル）を和らげるためのケアです。病期にかかわらずいつでも、誰でも、様々な場所で受けることができます。

① 治療中の病院で
「担当医」の緩和ケアを受ける・「緩和ケアチーム」の緩和ケアを受ける
②「緩和ケア病棟」のある施設で
「緩和ケア」を受ける
③ 自宅で
往診や訪問看護を受けながら「緩和ケア」を受ける　（緩和ケア.net より引用）

当院は、緩和ケア外来、緩和ケア看護相談、緩和ケアの専門チームが活動しています。１人で悩まず担当医や担当看護師に『緩和ケアを受けたいです』と相談してください。

緩和ケア外来
毎週火・木曜日　午後１時 30 分～
［予約：要］

緩和ケア看護相談（患者サロンルーム）
第３金曜日　午前９時～12 時
［予約：不要］

緩和ケア病棟について

2018 年８月から当院９階が緩和ケア病棟として稼動し始め４年となります。

当院の緩和ケア病棟は、生命を脅かす疾患で、治療や延命を目的とした治療は行わず、症状緩和を目的とした医療が必要と判断され、本人と家族が希望された方が対象となります。

昨年から新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、緩和ケア病棟での面会のあり方やご家族との過ごし方を考える機会が多くなりました。今までのように、ご家族の面会や、お祝い事、食事会、紫蘭の会（遺族会）など緩和ケア病棟で行えていたことができない現状です。できる限り大切な時間をご家族と過ごしてもらうために、日々検討しながらケアをさせて頂いています。リモートでの面会もお手伝いさせてもらいながら、感染対策を徹底したうえで、大切な時間を過ごして頂いています。

薬薬連携について

薬剤科　森田　優

薬薬連携とは

病院・診療所の薬剤師と保険薬局の薬剤師が連携して患者さんの薬に関する情報を共有し、入院してからも退院してからも切れ目のない安心・安全な薬物療法を提供するために連携することを薬薬連携といいます。

お薬手帳を活用した薬薬連携

お薬手帳は非常に大切な薬薬連携のツールのひとつです。お薬手帳には、いつ・どこで・どんな薬が処方されたか、既往歴、アレルギー歴、副作用歴など大切な情報が記入されています。これらの情報を医療機関と保険薬局で共有することで、患者さんに安心・安全な薬物療法を提供することができます。

具体的に当院でお薬手帳を活用している場面を紹介します。

➢　入院時

お薬手帳により、入院前に使用していた薬を把握することができます。また、手術前や検査前に休薬が必要な薬の有無や、薬のアレルギー・副作用歴を確認することで、入院中も安心安全な治療を行うことができます。

➢　退院時

入院中に新たに開始された薬や、変更となった薬（中止、減量・増量、他の薬へ変更など）を退院時にお薬手帳に記載します。また、入院中に起きた薬のアレルギーや副作用があれば合わせて記載します。そうすることで、退院後も安心安全な薬物治療を継続することができます。

➢　外来がん化学療法時

治療内容・副作用などを記載した化学療法計画書（レジメンシール）をお薬手帳に記載しています。保険薬局とこれらの情報を共有することで、飲み合わせの悪い薬や重篤な副作用の確認を行うことができます。

半田　太郎　様の化学療法計画書

大腸(術後)XELOX療法

身長 160 cm　体重 45 kg （2017.9.18現在）

BSA(Du Bois式) 1.44 m2

◎注射のスケジュール

今回の化学療法は21日が1コースとなっています。1日目に点滴を行い飲み薬を14日間服用します。
8コース実施する予定です。

順番（点滴時間）	お薬の名前	効果	1日目	・・・14日	・・・21日目	22日目（次コース）
			3月10日	3月23日	3月30日	3月31日
①（30分）	グラニセトロンバッグ デキサート注 6.6mg ネオレスタール注 10mg	吐き気 アレルギー予防	●	お休みです	お休みです	●
②（2時間）	ブドウ糖液 500mL エルプラット注 mg デキサート注 6.6mg	化学療法剤 血管痛を和らげる	●			●
③(全開)	生理食塩水 50mL	水分の点滴	●			●
④ 飲み薬	ゼローダ錠(内服薬) 1回 5 錠 を 1日2回	化学療法剤	1日2回朝夕食後 注意)本日夕から15日目朝まで			●⇒

◎注意していただきたいこと

・しびれ対策のため、直接冷たいものをさわらず、冷たい飲食物は避けるようにしてください。

がん種レジメン名
患者情報
治療スケジュール
投与量
主な副作用
注意点
副作用の評価

お薬手帳を活用しましょう

医療機関や保険薬局へ行くときは、必ずお薬手帳を提示するようにしましょう。また、医療機関ごとに何冊もお薬手帳を作るのではなく、一冊にまとめることが大切です。ご協力お願いします。

有料個室について

公立西知多総合病院では、入院される方のために、個室Ａ・個室Ｂ・個室Ｃの３タイプの有料個室を用意しています。

プライバシーを重視した快適な入院生活を希望される方は是非ご利用ください。

料金や設備等の詳細は、当院ホームページをご覧ください。

※写真は個室Ａです。

メディアスチャンネルで放送中！

放送日時は以下の通りです。

月曜日	10：55～	土曜日	22：55～
火曜日	23：40～	日曜日	18：55～
水曜日	12：25～		
木曜日	14：20～	※各回 5 分間の放送	
金曜日	12：25～		

～ 基本理念 ～

私たちは、知多半島医療圏の北西部地域における中核病院としての使命を果たすため、次のとおり基本理念を定めます。

1　地域の皆さんとともに育む、心のこもったあたたかい病院を目指します。
2　質の高い医療を提供する、信頼される病院を目指します。
3　地域医療の担い手として、安心して暮らせるまちづくりに貢献します

～ 基本方針 ～

1　患者さんの生命と人権を尊重し、安心安全な医療を提供します。
2　地域の基幹病院として、救急医療と急性期医療の充実に努めます。
3　地域の医療機関や保健・福祉機関と連携し、地域住民の健康増進を図ります。
4　教育と研修により、医療技術の向上と人間性豊な医療人の育成に努めます。
5　職員がやりがいを持ち、安心して働くことができる環境を整えます。
6　健全な病院経営に努めます。

公立西知多総合病院だより　第 23 号

2021 年７月発行　編集：広報図書委員会　発行：公立西知多総合病院